

地域包括支援センターからのお知らせ

9月21日は世界アルツハイマーデー

～認知症 地域みんなで支えよう～

☎地域包括支援センター(高齢福祉課)
〔保健センター〕

☎71・4652 ☎72・1481

湖南市は団塊の世代が多く、今後急激な高齢化が予測され、平成37年には認知症の高齢者が約3,500人にのぼると推計されています。

認知症は決して他人事ではなく、誰にでも起こり得る身近な病気です。そのため、認知症やそのケアの方法を正しく理解し、お互いが安心して暮らせる温かいまちづくりが重要です。

認知症ってなに？

脳が何らかの障がいによって正常に働かなくなり、社会生活を送ることが難しくなる病気です。アルツハイマー型認知症や脳血管性認知症など、種類は様々で、もの忘れを中心として徘徊や幻覚など、人によっていろいろな症状があります。

認知症の進行はとめられる？

症状の進行を止めることは難しいですが、周囲のケアや薬によって進行をゆるやかにすることができます。早期の認知症では薬の効果が大きく、治療の選択の幅が広がる可能性もあります。「話しのつじつまが合わない」「約束の日時や場所を間違えるようになった」など、気になる症状に気づいたら、まずはかかりつけ医や地域包括支援センターに相談してください。



どのような関わりが良い？

認知症の人だからといって付き合いを変える必要はありませんが、認知症への正しい理解に基づく対応が必要になります。

基本姿勢

対応の心得“3つの「ない」”

1. 驚かせない
2. 急がせない
3. 自尊心を傷つけない

普段から住民同士が挨拶や声かけにつとめることも大切です。日常的にさりげない言葉かけを心がけることで、地域のつながりを深めていくことが大切です。



下田商店街で認知症サポーター養成講座を開催しました

講座では、認知症の症状や対応の仕方などを学び、商店の従業員を中心とした21人が認知症サポーターになりました。

受講者は「認知症の症状などをあらためて学べてよかった。お客さんのなかには認知症かな、と思う人もいるが、顔馴染みの人も多いので、何か困ったことがあれば助けることができる。そっと見守っていきたい」、「寄り添い、優しく声をかけていきたい。高齢者も利用しやすい下田商店街になれば良いな」と話していました。



▲認知症サポーター養成講座の様子



▲湖南市オリジナルステッカー

受講したお店には、認知症サポーターの目印として「湖南市オリジナルステッカー」が貼られています。

認知症サポーター養成講座は3人以上の団体であれば、子どもから大人まで誰でも受講できます。認知症の人や、その家族を地域で支えていくため、皆さんも受講してみませんか。詳しくは地域包括支援センターにお問い合わせください。